

問題No.1

大規模小売店舗に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 大規模小売店舗立地法では、店舗面積1,000㎡以上が対象となる。
2. 最近の大規模小売店舗は、専門深化した「専門大店型」から、豊富な品揃えの「総合型」へと変化している。
3. SPAとは、製造と小売を一貫して行う新業態型の大規模小売店舗のことである。
4. 専門大型店を規模的に見ると、営業面積1,000㎡程度がマーケットの主流である。

【解説】

2. 「総合型」から「専門大店型」へ変化している、が正しい。
「商業施設・創造とデザイン」 V. 機能計画から施設計画へ 2. 大規模小売店舗業態の捉え方 P.212参照

答 2

問題No.2

商業施設計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 適正な資金の投資の中でも、施設投資と商品仕入れ投資の良いバランスは重要である。
2. 商業施設で言う「マーケット」とは、立地特性、人口、世帯数、収入構成、人口動態などを含めていう。
3. マーチャンダイジング計画とは商品開発計画のことで、商品の性能とコストのバランスを考えることである。
4. VMDとは視覚的効果をねらった商品政策のことで、商品をはじめ全てに視覚的要素を演出し、管理する活動をいう。

【解説】

マーチャンダイジング計画とは、販売計画の事で商品化したものをいかに商品構成をしてどのような販売形態をとるかである。「商業施設・創造とデザイン」 V. 機能計画から施設計画へ5-(4) P.230参照

答 3

問題No.3

商業施設の照明計画に関する次の組み合わせのうち、最も不適当なものはどれか。

1. 直接照明 …… シーリングライト
2. 全般拡散照明 …… シャンデリア
3. 間接照明 …… ダウンライト
4. 局部照明 …… スポットライト

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅵ 建築計画 3. 照明計画 P.294参照

答 3

問題No.4

大規模な商業施設を計画する上で、省エネルギー・省資源に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 冷暖房や給湯に、太陽熱利用の設備を用いる。
2. 太陽電池とは、太陽エネルギーを直接熱に変換するものである。
3. 熱源機器の負荷変動に応じた台数制御運転は、省エネルギー効果がある。
4. コ・ジェネレーションシステムは、リサイクルの推進を行うためのシステムである。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅴ. 機能計画から施設計画へ 4. 地域環境やアメニティに関する計画 周辺環境に対する計画 P.226参照

答 4

問題No.5

サイン計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 外部サイン計画は、施設の外観イメージに大きく影響するので、建物外装設計と並行して行うべきである。
2. 文字・言語によるサイン計画では、目立つことよりも誤認されないことが大切である。
3. 内部照明方式のサインは、外部照明方式に比べて、保守点検の容易さ、維持費の安さが特徴である。
4. ピクトグラムによるサインは、最近では増える傾向にある。

【解説】

3. この特徴は、外部照明方式のもの。

「商業施設・創造とデザイン」Ⅵ. 建築計画 7. サイン計画 P.314～321参照

答 3

問題No.6

建築様式に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 数寄屋造りでは、厳格な左右対称の意匠が重視された。
2. ゴシック様式の特徴の一つに、フライングバットレスがある。
3. 書院造りには、現在の床の間や違い棚の原形が見られる。
4. バロック建築では、華やかで動きに富んだ、大胆な造形美が追求された。

【解説】

左右対称や同一形態の反復は、むしろ避けられた。
「商業施設・創造とデザイン」Ⅵ. 建築計画1-(1) P.232～237参照

答 1

問題No.7

室内壁の表面における結露を防止する次の方法のうち、最も効果の少ないものはどれか。

1. 室内壁面をカーテンで覆う。
2. 室内壁面を暖める。
3. 壁体の断熱性を高める。
4. 各室間の温度差を小さくする。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅵ. 建築計画 2-2-(1) 建築と環境 P.244～245参照

答 1

問題No.8

音響に関する次の記述のうち、最も適当なものはどれか。

1. 音波の伝わる速度は、常温空気中では毎秒約560mである。
2. 室内における残響時間が長いほど、講演や会議に適している。
3. 半球形の室は、音が拡散せず一点に集中するので、音環境としては不適切である。
4. 1台で80デシベルの騒音を出す発動機を2台にすると、騒音のレベルは160デシベルとなる。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」Ⅵ. 建築計画 2-2-(1) 建築と環境 P.247～249参照

答 3

問題No.9

建築計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 配置計画は、敷地と方位の関係を考慮に入れて進める。
2. 動線計画は、異種の動線を出るだけ交差しないよう考慮して進める。
3. 立面計画は、開口部の位置設定など平面計画と並行して進める。
4. 断面計画は、平面計画を決定した後に進める。

【解説】

4. 断面計画は、平面計画と同時に計画する。

問題No.10

建築基準法に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の1階で、隣地境界線から3m以下の部分は、延焼のおそれのある部分である。
2. 建築物の3階以上の階には、原則として、非常用の進入口を設けなければならない。
3. 建築物の防火区画の種類には、面積区画、堅穴区画の他に、異種用途区画がある。
4. 床が地盤面下にある階で、床面から地盤面までの高さが、その階の天井高さの2分の1以上のものは、地階である。

【解説】

4. 天井の高さの3分の1以上のものが地階である。

「商業施設・建築とデザイン」 VI. 建築計画2-(3) 建築法規 P.256～269参照

問題No.11

建築物の内装制限に関する次の記述のうち、建築基準法上、最も不適当なものはどれか。

1. 平屋建旅館の宿泊室の壁・天井を、難燃材料で仕上げる。
2. 地階にある飲食店の客室の壁・天井を、難燃材料で仕上げる。
3. 自動式のスプリンクラー設備及び排煙設備を設けた部分は、内装制限を受けない。
4. 床は、内装制限を受ける建築物の部分に含まれない。

【解説】

2. 地階には、準不燃以上が必要である。

「商業施設・創造とデザイン」 VI. 建築計画2-(3) 建築法規 P.268～269参照

問題No.12

建築構造計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物の剛心（強さの重心）と重心（荷重の重心）が極端にかけ離れないように計画する。
2. 鉄骨の骨組みは、構造材料が限界強度に達した場合直ちに变形し崩壊する。
3. 建築物の形状（平面・立面）は単純で構造力学に明快なものとする。
4. ねじり変形は建築物の特定の側に抵抗要素が集中すると発生する。

【解説】

2. 構造材料が限界強度に達した場合、直ちには变形、崩壊しない。变形しながらも地震力のエネルギーを吸収させるような構造計画が大切である。

「商業施設・創造とデザイン」 VI. 建築計画2-(4) P.275～279参照

答 2

問題No.13

構造材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 木材の心材は一般的に硬質で重く、狂いが少ない。辺材は吸湿性があり、軟質で狂いやすい。
2. 柃目板は樹心を通して挽き割^{ひきわ}ってできる。板目板に比べて収縮、ねじれ、割れなどの発生が少なく高価である。
3. 一般に金属は大きな塑性変形が可能で、熱伝導率・電気伝導率が大きい。
4. 普通コンクリートの強度は水セメント比によって決まるが、その数値が小さい程強度は小さい。

【解説】

4. 水セメント比が小さい程コンクリートの強度は大きい。「商業施設・創造とデザイン」 VI. 建築計画2-(4) 建築構造 P.281～285参照

答 4

問題No.14

換気設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 暖冷房設備のある室には、熱交換型の換気装置をつける。
2. 換気扇を設置する室には、給気口を設ける。
3. 換気扇の設置は、風当たりの強い壁面を避けるほうが良い。
4. 厨房に、給気型のレンジフードをつける。

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 VI 建築計画 2-(5) 建築設備 P.286～287参照

答 4

問題No.15

建築設備に関する次の用語の組み合わせとして、最も不適当なものはどれか。

1. 空調設備 …… ヒートポンプ
2. 給水設備 …… グリーストラップ
3. 電気設備 …… ブレーカー
4. 衛生設備 …… フラッシュバルブ

【解説】

「商業施設・創造とデザイン」 VI 建築計画 2-(5) 建築設備 P.287～290参照

答 2